
If. ~もしもあの時・・・~

もみじ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

If . . . もしもあの時 . . .

【Nコード】

N5347J

【作者名】

もみじ

【あらすじ】

もし、ハヤテがもう一度王族の庭城に入れていたら . . . で、アテネ視点の話です。

(前書き)

お久しぶりです、もみじです。

連載中の小説が現在も更新できなくなっているので短編小説を作りました。

『こんなことするなら連載のほうを書けよ・・・』という声が聞こえてきそうですが・・・

それはさて置き、今回の話はハヤ×アテです。

注意：恋愛ものではありません。

それでは、本文へどうぞ。

If . . .
もしもあの時

なんだよ!! 誰だよ君!!
に!! ほっといてよ!!

僕の事なんかなんにも知らないくせ

「アーたん」、 「アテネ」を略して「アーたん」。

僕とアーたんは・・・ずっと一緒だ。

僕と一緒に・・・お城の外で暮らさない？

それが・・・僕の君への・・・愛の証だ。
って事に・・・今はしてくれないかな？

それで甲斐性がある

ハヤテ・
・
・

ハヤテ・・・

なんだよさっきから!!

アーたんには……!!

お父

さんもお母さんもないからそんな
事・・・！

「ハヤテ!!!」

あの日から数ヶ月、私はいつも夢の中であの日のことを鮮明に思い出す・・・

貴方と一緒に住んでいた数ヶ月を・・・

なんであんな事をしてしまったのだろうか？

今になっては取り返しの付かない事だとは分かっている。

だけどいつも呼んでしまう。

貴方のことを。

貴方はいつも私のそばに居てくれた。

数日間、お城に帰ってこないと思ったら、

ぼろぼろになって帰ってきたこともあった。

プレゼントの指輪を持って・・・

でも、貴方がくれた指輪は私には大きすぎた。

貴方はドジだから仕方ないけど・・・

私も貴方に指輪をプレゼントした。

これをはめられるような大人に、一緒になろうと約束をして・・・

これからもずっと一緒に居れると思っていた。

だけど、その想いは届かなかった・・・

もしあの時、あんなひどい事をしなかったら貴方は私のそばにいて

くれた？

最近、この言葉ばかり頭の中を駆け巡っている。

あの時から私の時計はずっと止まったまま・・・

どうしても貴方に逢いたい。

例え、私の財産がなくなろうとも・・・

貴方がそばに居るだけで、私はとても幸せだから・・・

でも、貴方はもうここには居ない。

どんなに私が願っても、

貴方が帰ってくることはない・・・

神様の真似事はできるようになったけど・・・

貴方をここに呼ぶことはできない。

『
ア
ー
た
ん
』

遠くで貴方が私を呼ぶ声がした。

幻聴だとは分かってる。

でも、やっぱり貴方に逢いたいから……

私はお城を探し回る……

いろいろな所を回ったけど、やっぱり貴方はいない……

最後に来た、ここも・・・

2人で愛を叫びあつたこの場所にも・・・

『
ア
ー
た
ん
』

また貴方が呼んでる声がする。

もう私には、貴方が居ないと生きていけなかった・・・

『ア—たん!!』

貴方の声がだんだんと近づいてくる・・・

『
ちっと、
見つけた!!
』

私のすぐ後ろから貴方の声がした。

恐る恐る振り向くと、

貴方が息を上げながら立っていた。

私は夢でも見ているのではないかと思った。

あれほど逢うことを待ち望んだ貴方が、私の目の前に居るから・・・

頬を引っ張ってみる・・・

痛い・・・

夢じゃない!!

貴方は私の目の前に居る。

待ちに待っていた貴方が・・・

「アーたん、この前はごめんなさい！！ もし、許してくれるなら
これからも一緒に・・・」

泣き虫な貴方はもう泣きそうだった・・・

私も、もう貴方に逢えて泣きそうだった。

だけど泣いてはいけない。

貴方にこの言葉を言うまでは・・・

もしももう一度、貴方とこの城で出逢うことができたら言おうと決めていたこの言葉を・・・

「おかえりなさい、ハヤテ・・・」

私の止まっていた時計が・・・

あの日から動くことを止めた時計が・・・

また、時を刻み始めた・・・

(後書き)

いかがでしたでしょうか？

私はアテネが好きなので、この小説を書きました。

私的にはハッピーエンドにしたつもりです。

非難も含め、感想、よろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5347j/>

If. ~もしもあの時・・・~

2010年10月10日22時24分発行